

リュウゼツラン成長日記

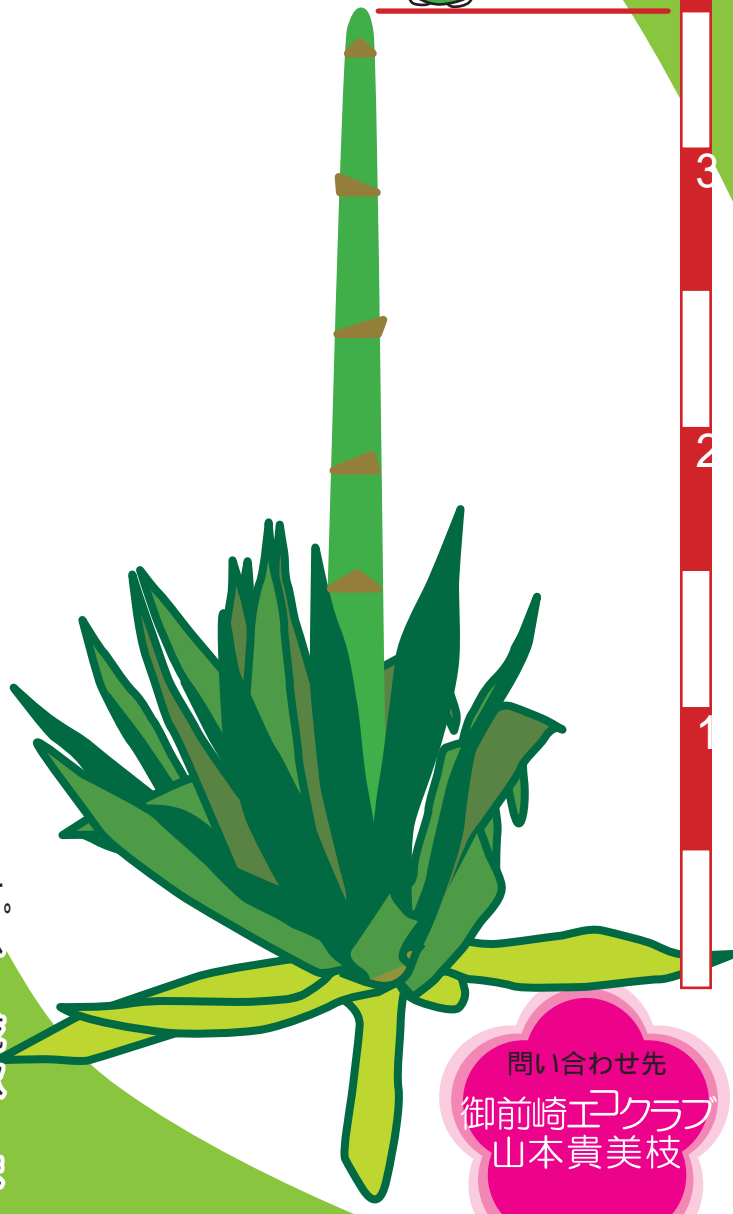
- 4月中旬 花茎の伸長が始まる
- 4月26日 花茎185cm 竹の節のような部分から枝になる芽のようなものが出始める
- 5月1日 花茎245cm 下部の葉が茶色に変色して枯れ始める。養分を茎に送り葉の役目を終えたようだ
- 5月7日 花茎290cm 花茎が倒れないように鉄の支柱を設置
- 5月14日 花茎350cm 茶色だった茎が緑色に変わってきた



アオノリュウゼツラン

リュウゼツラン科
リュウゼツラン属

メキシコを中心にアメリカ南西部と中南米の熱帯域に自生します。成長が遅く花を咲かせるのに数十年を要し、あまりの成長の遅さに10年に一度開花するという意味でセンチュリープラントという英語別名が付けられています。日本では30~50年で開花し、開花時期を迎えた株は、株の中心から伸びる花茎へと養分の転流が起こり下の葉から枯れ始めるとともに花茎が急成長します。花茎は1日に10センチほど成長し、2ヵ月ほどで高さ10メートルにもなり多くの花をつけます。開花後は枯れてその生涯を閉じますが、同時に周囲に子株を作り次代へと引き継がれます。大変珍しい花で咲いている姿を次回見ることができるのはいつになるかわかりません。



問い合わせ先
御前崎エコクラブ
山本貴美枝